

幼児教育学科

科目名: 造形表現演習			担当教員 氏名: 北澤 晃		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 後期	専門科目	演習	選択	
実務経験を用いてどのよう な授業を行っているか: 子どもがどのように、感じ、考え、行為し、意味をつくり続けていく存在かを実務経験に基づいた視点の提 供をする。そのことによって、子どものよさや可能性を具体的に記述できる力を付ける。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
資質・能力を統合・総合化する“Art Thinking”【アナログ】の重要性を理解し、その思考 を活性化する臨床美術プログラムの習熟を通して、自らが造形表現活動の場や機会を 計画する際に、“Art Thinking”を活性化させる視点を持つことができる。そのなかで、他 者理解をより深め、より良い活動内容や環境の設定に配慮できる実践者としての資質・ 能力を高める。					・“Art Thinking” ・臨床美術 ・他者理解
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力	資質・能力を統合化・総合化する“Art Thinking”の重要性を理解する。				
B 専門的技術	“Art Thinking”のプロセスを保障する造形表現(臨床美術)活動に関する技術を習得する。				
C 論理的思考力	感じ、考え、行為し、意味をつくり続けていることの成り立ちを記述する。				
D 問題解決力	アートプログラムの目的・内容、援助・留意点などについて理解し実践する。				
H コミュニケーション力	表現行為の場に立ち上がる意味に共感的に関わり、他者とのコミュニケーションを図る 態度を持つ。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: 70 %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: %	
特記事項: 『レポート(70%)』は、各活動後の学びをまとめたポートフォリオである。『発表(30%)』は授業における発表状況である。 本科目はアクティブラーニングの一環として、地域コミュニティーで学生が主体的に造形活動を行い、実践力を身につける。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 以下の授業で、各自のテーマへの取組み・進行状況を確認し、過程を評価します。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 毎回の授業においてコメントする。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な 時間(分)	
①ガイダンス(「造形表現演習」の概要の理解)と共通テーマの確認			【復習】共通テーマに関わる調査・検 討/計画	30	
②実践に向けた調整、検討			【復習】計画策定	60	
③現場実践A			【復習】現場実践の振り返り	60	
④現場実践B			【復習】現場実践の振り返り	60	
⑤現場実践C			【復習】現場実践の振り返り	60	
⑥相互行為分析の手法について			【復習】研究方法の復習	60	
⑦相互行為分析の実施			【復習】相互行為分析の実施	90	
⑧相互行為分析の実施			【復習】相互行為分析の実施	90	
⑨相互行為分析の実施			【復習】相互行為分析の実施	90	
⑩相互行為分析の整理、考察			【復習】相互行為分析の考察	90	
⑪相互行為分析の整理、考察			【復習】相互行為分析の考察	90	
⑫相互行為分析の整理、考察			【復習】相互行為分析の考察	90	
⑬相互行為分析考察検討			【復習】分析考察のまとめ	90	
⑭研究の振り返りとまとめ			【復習】研究のまとめ	90	
⑮研究のまとめと今後の課題			【復習】研究のまとめと課題	90	
使用テキスト: 必要に応じて資料を提供します。			その他参考文献など: 適時紹介します。 造形表現活動に関する文献を多く読むこと。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 臨床美術の考え方を生かした造形表現活動を理解・実践することを通して、資質・能力 を統合化・総合化する“Art Thinking”の重要性を理解する。					